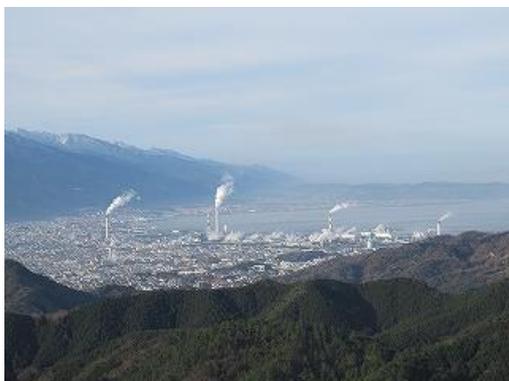


# 川之江



香川県境より



堀切峠より

川之江の地名の由来は、「川のほとりにできた集落」を意味する。かつて金生川は、市民会館あたりから現在の国道11号線のところを流れ、川之江漁港に流れ込んでいた。金生川のほとりにできた集落であるがゆえに「かわのへ」と呼ばれるようになったと考えられると玉井氏が「地名で読む川之江」の中で述べている。

では、いつから「川之江」と呼ばれるようになったのだろうか。太平記巻22に「細川頼春が、伊予、讃岐、阿波、淡路の兵七千余騎をもって河江城の土肥三郎左衛門を攻めた。」とある。このことより室町時代には、「かわのえ」と呼ばれていたことが分かる。

江戸時代になると長崎県の松浦資料博物館所蔵の古地図に「川ノ江」の文字が見られるなど、「川上」「川江」「河上」など表記は様々であるが「かわのえ」という地名が確認できる。